

# 浅海増殖試験 海藻調査

石田健次

クロメなどの多年生大型褐藻植物の群落は、沿岸域で太陽光が射し込む水深30m位までの岩礁域に森林のように生育していることから、一般に海中林と呼ばれている。このような群落は多様な魚類、貝類およびウニ類などの産卵場や生育場となっており、沿岸域の生物にとって重要な場である。ところが、沿岸域の浅所は海岸線の保全や港湾の整備などによって自然環境が破壊され人工的な環境が局部的に造成されるなどの環境の変化に翻弄される場所となっている。

本年度はクロメが分布する条件について検討した。

## 方 法

調査は8月26から10月28日の間に八東郡島根町から鹿島町沖合で試験船「やそしま」を使用して岩礁域が深所まで続く場所を選定し、船上から水中TVカメラ（EYE-BALL、ケーブル長50m：日立造船株式会社）を吊り下げ、水深16から46mの間を前年度と同じ方法で観察した<sup>1)</sup>。今回はクロメが分布する岩礁と転石を中心に海底の状況を観察した。またクロメを目視したときの1視野内の生育密度を次のように5段階に区分し、点数で分けた<sup>2)</sup>。

点 生	：クロメが疎らに点在する	.....	1点
疎 生	：クロメが1/3未満である	.....	2点
密 生	：クロメが1/3以上、1/2未満である	.....	3点
濃 生	：クロメが1/2以上、3/4未満である	.....	4点
濃密生	：クロメが3/4以上である	.....	5点

## 結 果 と 考 察

クロメは浅場から深場の岩礁や転石でみられ、観察した81点中49点（60%）で出現した。出現しなかった32点のうち2点（6%）は水深20m以浅であった。また、砂紋が形成された水深24から36mの砂地上に点在する小規模な岩礁や不安定な転石では観察した23点中11点（48%）で出現した。このように、クロメの分布は波浪の影響を受けやすい浅場では安定した付着基質に、波浪の影響が少ない深場では漂砂の影響を受けやすいと思われる場所の不安定な転石上にも観察された。また、クロメの平均点数と生育密度は観察した回数が1回であった水深19m以浅と35m以深を除くと、水深20から24mが3.2点（2から4点）で密生、25から29mが2.6点（0から4点）で疎生、30から34mが1.7点（0から3点）で点生になり水深が深くなるにしたがっておもに光環境が影響して植生が疎になるものと思われる。また、クロメが生育する環境と全く存在しない環境では光、地形、浮泥、漂砂、波浪、食害などの条件の違いがあると考えられる。

## 文 献

- 1) 島根県水産試験場：平成7年度島根県水産試験場事業報告書 84-86, 平成9年5月.
- 2) 水産庁研究部漁場保全課：漁場保全対策推進事業調査指針(案) 31-43, 平成8年8月.